

宮城県民会館整備基本構想 概要版

1. 県民会館を取り巻く現状と課題の分析

- (1) 県内のホール施設の設置状況と県民会館との関係性
- ・県内全域では 53、仙台都市圏に 32 のホール施設が存在、過半数が仙台都市圏に集中している
 - ・1,000 席を超える大規模ホールは 13 施設、1,500 席超の施設はうち2施設(宮城県民会館、仙台サンブラザホール)のみ
 - ・仙台市では、2,000 席規模の生の音源に対する音響重視の高機能多機能ホール整備が計画されている

(2) 県民会館の概要

開館年	昭和39年
施設内容	ホール席数：1,590席、 舞台寸法：22m×15m×8m、 楽屋数：10 その他諸室：リハーサル室、会議室6、和室4、展示室2、学習室2、浴室2、食堂喫茶
管理運営団体	指定管理者 / 宮城県民会館管理運営共同企業体((公財)宮城県文化振興財団・(株)東北共立・陽光ビルサービス(株))

(3) 県民会館の現状と課題

- ・平成 27 年度の都道府県立施設における年間平均ホール稼働率は 64.8%
- ・全国の 1,000 席以上のホールにおける年間平均稼働率は 58.3%
- ・県民会館の過去3年における稼働率はこのいずれをも上回り、平均で 80%を超える高稼働状態
- ・現在の県民会館の運営者や利用者を対象としたヒアリングによると、以下のように課題は多岐にわたる

ハード面		ソフト面	
搬入口・楽屋	・車両通り抜けや留め置き、駐車ができない ・バックステージが窮屈 など	施設予約	・稼働率が高く予約が取りづらい ・抽選方式の運用方法 ・一部主催者による優先利用 など
舞台	・額縁が低い ・舞台奥行が狭い など		
ホワイエ・客席周り	・バリアフリー非対応 ・階段や扉が分かりにくい など	会館職員の対応	・対応が硬直的 など
その他施設・設備	・外壁、電気機器等の経年劣化 ・舞台設備等の更新が必要 など		

※「県民会館の整備のあり方に関する有識者会議」の概要

○ 文化政策や文化施設に識見を有する学識経験者、施設運営管理者など7人で構成

第1回	開催日：平成31年2月14日	議題：県民会館の整備のあり方について
第2回	開催日：平成31年3月25日	議題：県民会館に求められる機能と立地条件について
第3回	開催日：令和元年5月29日	議題：県民会館に求められる機能と立地条件について
第4回	開催日：令和元年9月5日	議題：県民会館の施設整備の基本的な方向性について

2. 新しい県民会館に求められる役割

(1) 検討の前提

- <国及び県の計画等>
- ・国は平成 30 年に「文化芸術推進基本計画」を策定し、劇場、音楽堂等が教育機関や福祉機関、医療機関等の関係団体と連携し、社会課題を解決する場として、その役割を果たすことの重要性について述べている
 - ・県は平成 28 年に「宮城県文化芸術振興ビジョン(第2期)」を策定し、震災からの「心の復興」を重点取組として施策展開を図っている
- <県民会館整備の必要性>
- ・仙台市内の文化施設は、特に大規模ホールにおいて土・日曜日の利用が過密化、ホール不足の状態
 - ・これを解消するためには、2,000～2,500 席の大規模施設が求められる
 - ・同時に、演劇に適した中・小規模の劇場も望まれている
 - ・県民会館は、これまで担ってきたステージ系興行公演の更なる振興とともに、需要が期待されるポップス系の大型公演にも適した、電気音響重視のテクノロジー進化に対応した多目的ホールとすることが望まれる

(2) 県民会館に求められる役割

ホール機能	東北地方全体の需要を見据えた地域の要となる テクノロジーの進化に柔軟に対応し、創造・普及活動にも利用できる <u>多機能なホール</u>
県中核拠点機能	アウトリーチや人材育成などを通して <u>県内市町村を支援し、県内ネットワークのハブ</u> となる
共用機能	<u>街と劇場を繋ぎ、多くの人々に開かれた空間</u> として <u>都市全体を盛り上げていく</u>

3. 新しい県民会館の基本理念と基本方針

(1) 基本理念

アート×エンタテインメント×テクノロジー

- ・東北最高峰の文化芸術拠点として様々な芸術体験を展開する
- ・空間、演者・観客、テクノロジーの相互作用による、新しいエンタテインメントの発信に寄与する

人材育成×活動支援×地域連携

- ・文化施設人材育成拠点として県内文化力のボトムアップを目指す
- ・県内文化芸術団体・文化施設などと連携し、県民が等しく文化芸術を創造・発信・享受・活用できる拠点を創出する

(2) 基本方針

ホール	方針1： <u>東北最大規模の大型総合エンタテインメント拠点</u> 県民が上質な作品に触れる機会の創出
	方針2： <u>最先端の芸術発信・クリエイティブ拠点</u> 演劇、音楽、舞踊、美術、あらゆる芸術分野の共存と共振
機能	方針3： <u>県内文化施設人材育成中核拠点</u> 県民の活動支援拠点、社会課題解決の場
空間・共用スペース	方針4： <u>新たなコミュニティ拠点</u> 刺激的なパブリック空間

4. 新しい県民会館の施設整備の考え方

(1) 施設整備の基本方針

ホール部門 ・東北最大規模・最先端の高機能ホール ・最新テクノロジー、多様なジャンルに対応	交流・コミュニティ部門（共用スペース等） ・エントランスロビー等共用スペースを交流の場に ・常に何かが行われ、来館者に刺激を与える空間
創造・育成・連携拠点部門（ホール以外） ・県内の文化施設人材育成中核拠点 ・高機能・多用途のスタジオシアターの活用	管理運営部門（その他・施設全体） ・事業運営、施設維持管理等を一体的に行う管理事務室 ・有事の際の県民の避難場所

(2) 施設機能の整理

ホール部門 大ホール（2,000～2,300席程度） ・多様な利用ジャンルを想定した劇場型 ・容易な搬入・搬出などバックヤードの充実を図る ・ホワイエ空間の充実、十分なトイレ数の確保	交流・コミュニティ部門（共用スペース等） ① <u>ギャラリー・アトリエ</u> …文化芸術活動の創作・展示対応 ② <u>アートライブラリー</u> …文化芸術の情報収集、閲覧 ③ <u>エントランスロビー</u> …交流・コミュニティ活動を誘発 ④その他…エントランスロビーと繋がる広場等
創造・育成・連携拠点部門（ホール以外） ① <u>スタジオシアター</u> 平土間、500～800席程度、あらゆる表現芸術に対応 ② <u>リハーサル室、練習室・稽古場</u> 日常的な練習から創造活動、発表会まで幅広く活用	管理運営部門（その他・施設全体） ①事務室関係 ②機械室関係 ③ <u>災害対応関係（災害用備蓄倉庫等）</u>

(3) 施設配置の想定

- ・観客、出演者、搬入出等の動線に考慮した配置計画
- ・日陰、搬入車両やバス、来場者の自家用車や人の集中による騒音・振動等の影響を極力抑える配置の検討

(4) 施設整備に必要な敷地条件の整理

- ・敷地が都市計画法及び建築基準法に基づく劇場施設の立地適性を備え、建物が物理的に配置可能であること
- ・公共交通機関や道路状況などによる交通アクセス、搬入の容易さ、周辺環境との親和性、自治体の上位計画や地域のまちづくりとの整合性等に留意すること

5. 新しい県民会館の整備候補地・スケジュール等

(1) 整備候補地

- ・仙台医療センター跡地を適地として検討

(2) 整備スケジュール等

- ・県有施設再編に関する議論の状況を踏まえ具体的な検討を進める